

一〇〇年これまでの、 これから

第1回 10月2日(水) 18時30分～20時

立正大学文学部の

一〇〇年

―草創期のころを中心に―

石山 秀和 立正大学文学部教授

第2回 10月9日(水) 18時30分～20時

しながわの一〇〇年

寺門 雄一 元品川歴史館学芸員

第3回 10月16日(水) 18時30分～20時

五反田から見える

日本の一〇〇年

星野 博美 ノンフィクション作家

第4回 10月23日(水) 18時30分～20時

池上線の走る街に 生まれて

平川 克美 隣町珈琲

第5回 10月30日(水) 18時30分～20時

今の時代に生きる

女形芸者の 在り方について

―大井海岸芸者の今までと、これから―

まつ乃家 栄太郎 芸者置屋まつ乃家 女将

募集期間 8/21(水)～9/11(水)

応募方法は裏面をご覧ください。 ※1回のみでもご参加いただけます。
※本学学生・教職員は申し込み不要です。

【個人情報保護の取り組み】ご提供いたします個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。
http://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/personal_info_protection.html

会場 立正大学品川キャンパス
石橋湛山記念講堂
(大崎駅・五反田駅より徒歩5分)

対象 16歳以上の方 受講料 無料 定員 300名

問い合わせ先

品川区文化観光戦略課 生涯学習係 TEL.03-5742-6837
立正大学文学部事務局 TEL.03-3492-8791

詳細は立正大学
公式ホームページでも
ご確認ください。



www.ris.ac.jp

立正大学 検索

第1回 10月2日(水) 18時30分~20時

立正大学文学部の一〇〇年

—草創期のころを中心に—



石山 秀和 立正大学文学部教授

1969年、東京生まれ。立正大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。立正大学文学部助手、東京都江戸東京博物館都市歴史研究室専門研究員、学芸員を経て、現在は立正大学文学部教授。著書に「近世手習塾の地域社会史」(単著)、「江戸の庶民文化」(共編著)、「東条琴台書目資料集成」全三巻(共著)、などがある。

講演要旨

1918年12月の大学令の公布とともに、官立のほか公立・私立の大学の設立が認められた。1920年2月の慶応義塾大学・早稲田大学を皮切りに、同年4月には明治・法政・中央などの各大学が発足し、立正大学は1924年に設置が認可された。文学部創設100周年を振り返るにあたり、この草創期の頃に焦点をあてつつ、文学部の歴史を述べたい。

第2回 10月9日(水) 18時30分~20時

しながわの一〇〇年



寺門 雄一 元品川歴史館学芸員

1958年生まれ。学習院大学大学院文学研究科博士前期課程修了。修士(文学)。品川歴史館学芸員、区史編さん担当主査、教育委員会文化財係長に就き、史資料の調査と収集・古代から現代までの展示、「品川区史2014」を執筆・編集、区内文化財の調査・活用に携わった。現在、交通史学会常任委員。

講演要旨

現在の品川区に人類が住み始めて1万年以上になる。その1万年余で、最も環境・人の営みが変わったのがこの100年である。これ以前にも、縄文時代・室町時代・江戸時代に、この地の人びとの営みが大きく変化した。共通するキーワードは「海」である。今回は、「海」の視点から、この100年を考えていく。

第3回 10月16日(水) 18時30分~20時

五反田から見える日本の一〇〇年



星野 博美 ノンフィクション作家

ノンフィクション作家。1966年、東京・戸越銀座生まれ。2001年に『転がる香港に吾は生えない』で第32回大宅壮一ノンフィクション賞、2012年に『コンニャク屋漂流記』で第63回読売文学賞「随筆・紀行」賞、2022年に『世界は五反田から始まった』で第49回大佛次郎賞受賞。最新作は『馬の惑星』。

講演要旨

現在は高層マンションや歓楽街のイメージが強い五反田は、かつて大工場、その下請けをする町工場がひしめきあう一大工業地帯だった。そして昭和20年5月、城南空襲で焼け野原となる。大正時代に13歳で五反田界隈へ上京して製造業の道に入った祖父、その後を継いだ父(立正高校卒業)の目を通し、日本の100年を振り返る。

第4回 10月23日(水) 18時30分~20時

池上線の走る街に生まれて



平川 克美 隣町珈琲

1950年東京生まれ。2014年、東京・荏原中延に「隣町珈琲」を開店。著書に「小商いのすすめ」「俺に似たひと」「共有地をつくる」「グローバルイズムという病」「路地裏の資本主義」「移行期的混乱」「言葉が鍛えられる場所」「21世紀の権力幻想論」「株式会社の世界史」「ひとが詩人になるとき」など。

講演要旨

映画監督の小津安二郎は、1932年、近代映画史の幕開けとも言えるサイレント映画の傑作『生まれてはみたけれど』を発表。映画には、蒲田、五反田をつなぐ池上線が頻りに映り込んでいる。共和的な貧乏が、不思議な明るさをもたらした平和の時代だったが、すでに日本は戦争へと足を踏み出していた。この100年の工場の町をめぐる光と影について語る。

第5回 10月30日(水) 18時30分~20時

今の時代に生きる女形芸者の在り方について

—大井海岸芸者の今までと、これから—



まつ乃家 栄太朗 芸者置屋まつ乃家 女将

大井海岸に生まれ育ち、幼少期よりお稽古事やお座敷のいろはを学ぶ。母の志を継ぎ2009年より芸者置屋「まつ乃家」の二代目女将となる。株式会社「まつ乃家」代表取締役。日本舞踊「花柳流」および鳴物「福原流」の師範。

講演要旨

私のような女形芸者は珍しいのですが、私をきっかけに少しでも大井海岸を知っていただけるのであればと思い活動しております。当日は、お座敷での踊りの実演(25分程度)をご覧いただいたあと、花街の話や自身のことについての講演(25分程度)をお聞きいただき、皆様からの質疑(25分程度)にお応えします。

令和6年度

立正大学文学部 創設一〇〇周年 記念公開講座

一〇〇年
これまでの、
これからの

「共催」立正大学文学部／品川区

応募方法

募集期間 8/21(水) - 9/11(水)

会場 立正大学品川キャンパス
石橋湛山記念講堂

(大崎駅・五反田駅より徒歩5分)

対象 16歳以上の方 受講料 無料
定員 300名

問い合わせ先

品川区文化観光戦略課 生涯学習係 TEL.03-5742-6837
立正大学文学部事務局 TEL.03-3492-8791

WEB登録

品川区ホームページの電子申請ページから受講登録(申請)できます。



往復はがき

①講座名「立正大学文学部公開講座」 ②住所
③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤連絡先電話番号
⑥過去の本講座参加の有無
を明記し、下記申込先へお送りください。

申込先 〒140-8715 品川区広町2-1-36
品川区文化観光戦略課 生涯学習係 宛

往信用(おもて) 返信用(うら)

往信	140-8715 品川区文化観光戦略課 生涯学習係 宛	品川区広町2-1-36	※返信ハガキの裏面は 何も記入しないで ください。
----	-----------------------------------	-------------	---------------------------------

返信	郵便番号 申し込み方の氏名	申し込み方の住所	①講座名 立正大学文学部公開講座 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤連絡先電話番号 ⑥過去の本講座参加の有無
----	------------------	----------	---